

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成24年7月19日 (2012.7.19)

【公表番号】特表2011-525352(P2011-525352A)

【公表日】平成23年9月22日 (2011.9.22)

【年通号数】公開・登録公報2011-038

【出願番号】特願2011-513442(P2011-513442)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 K 31/07 (2006.01)

A 6 1 K 31/11 (2006.01)

A 6 1 K 31/203 (2006.01)

A 6 1 K 38/21 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 16/18

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 K 31/07

A 6 1 K 31/11

A 6 1 K 31/203

A 6 1 K 37/66 G

A 6 1 P 43/00 1 2 1

C 0 7 K 14/47

【手続補正書】

【提出日】平成24年5月29日 (2012.5.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

レチノイド誘導核因子 (R I N F) をコードし、かつ、配列番号 1 または配列番号 2 の配列、またはその機能的断片もしくは変異体、またはそれとハイブリダイズ可能な機能的に同等の単離 D N A 配列、またはそれに対応する m R N A を含んでなる、核酸。

【請求項 2】

レチノイド誘導核因子 (R I N F) であり、かつ、配列番号 3 (C X X C 5) の配列またはその機能的断片もしくは変異体を含んでなる、タンパク質またはタンパク質誘導体。

【請求項 3】

それを必要とする哺乳類における、造血疾患の予防および / または治療のための医薬組成物、または造血細胞の分化もしくは細胞死の誘導もしくは増進のための医薬組成物の製造のための、請求項 2 に記載のタンパク質もしくはタンパク質配列、または請求項 1 に記載の核酸の使用。

【請求項 4】

in vitro またはそれを必要とする哺乳類における、造血細胞の分化の障害もしくは阻止のための医薬組成物、または幹細胞の増加のための医薬組成物の製造のための、請求項 2 に記載のタンパク質もしくはタンパク質配列、または請求項 1 に記載の核酸、または請求項 1 もしくは請求項 2 の配列のうちの 1 つと相互作用する化合物の使用。

【請求項 5】

前記造血細胞が、骨髄細胞、末梢血液細胞、臍帯血液細胞もしくは胎盤血液細胞であるか、または前記造血細胞が、腫瘍性、もしくは正常、すなわち非腫瘍性である、請求項 3 または 4 に記載の使用。

【請求項 6】

骨髄細胞、リンパ系細胞、または急性骨髄性白血病 (A M L) 細胞、急性リンパ性白血病 (A L L) 細胞もしくは骨髄異形成 (M D S) 細胞の最終分化が回復される、請求項 3 に記載の使用。

【請求項 7】

前記造血疾患が、骨髄異形成 (M D S, 骨髄異形成症候群)、急性骨髄性白血病 (A M L)、急性リンパ性白血病 (A L L)、骨髄増殖性症候群 (M P S)、慢性骨髄性白血病 (C M L) および慢性リンパ性白血病 (C L L) からなる群から選択される、請求項 3 に記載の使用。

【請求項 8】

癌の予防および / または治療のための医薬組成物の製造のための、請求項 2 に記載のタンパク質もしくはタンパク質配列、または請求項 1 に記載の核酸の使用であって、

前記癌が、好ましくは、白血病、骨髄異形成 (M D S, 骨髄異形成症候群)、急性骨髄性白血病 (A M L)、急性リンパ性白血病 (A L L)、骨髄増殖性症候群 (M P S)、慢性骨髄性白血病 (C M L)、慢性リンパ性白血病 (C L L) および固形腫瘍 (乳癌、黒色腫、肺癌、甲状腺癌、前立腺癌、神経芽腫、および腎癌) を含んでなる群から選択される、使用。

【請求項 9】

R I N F の発現を、レトロウイルスまたはレンチウイルスのベクター (過剰発現) を用いることにより、または請求項 1 に記載の配列の一部に作用する s h R N A 分子 (抑制) により調節する、方法。

【請求項 10】

レチノイド応答性の予後の、または請求項 3 ~ 9 のいずれか一項に記載の疾患の予後のための方法であって、請求項 1 に記載の核酸、および / または請求項 2 に記載のタンパク質もしくはタンパク質配列の状態を参照と比較することの特徴とし、該方法が、好ましくは、発現レベル、突然変異、メチル化、再配列および転座の検出により状態を評価する、方法。

【請求項 11】

癌または造血疾患、または骨髄造血減少状態の診断のための方法であって、請求項 1 に記載の核酸の発現レベルおよび / または状態、または請求項 2 に記載のタンパク質またはタンパク質配列の発現レベルおよび / または状態の検出を含んでなり、前記タンパク質またはタンパク質配列の発現レベルおよび / または局在性が、好ましくは抗体の使用により決定され、前記抗体が、好ましくは請求項 2 に記載のタンパク質またはタンパク質配列、より好ましくは配列番号 2 のアミノ酸 45 ~ 48 と反応する、方法。

【請求項 1 2】

急性前骨髄球性白血病（A P L）遺伝子型の検出、または哺乳類における白血病、前白血病（骨髄異形成）または癌の状態の判定のための、請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 1 3】

R I N F またはそのエピトープもしくは一部に対するモノクローナルまたはポリクローナル抗体の製造のための、請求項 2 に記載のタンパク質もしくはタンパク質配列、または請求項 1 に記載の核酸の使用。

【請求項 1 4】

請求項 2 に記載のタンパク質またはタンパク質配列の一部と相互作用する R I N F 抗体であって、好ましくは配列番号 2 のアミノ酸 4 5 ~ 4 8 と反応する、R I N F 抗体。

【請求項 1 5】

モノクローナル抗体である、請求項 1 4 に記載の R I N F 抗体。